

—地域のことは地域で協議し、決定を—

■9月25日、10月5日、10月8日、学校再編基本計画案説明会が開催されました。3回の説明会を傍聴し気づいたこと、町民の方と話して気づいたこと、嵐山町HPで気づいたことなどから。

■七郷小地区、菅谷小中地区在住の方の意見が異なります。

菅谷地区に小中学校建設を決定したとするのではなく、多様な立場で対話し、一方的ではなく、皆さんが納得できる方向を目指してほしい。

中学生は、古里地区のみバス通学。他の北部地区の12歳から15歳の中学生は自転車通学で、負担が大きい。

遠距離通学の子にスクールバスによる支援と見直しされました。

鎌形小学校が菅谷小に統合された時、最初の1年間はバスだった。他の地区も遠いのでバス通学は終わり、徒歩になり、遠く辛かった。通学路にトイレがないのが苦しかった。通学路に休憩所とトイレと水道はほしい。

菅谷地区には自然豊かな環境はない。周りに自然がある教育環境の七郷小を残す運動をしたい。

なぜ、学校再編が遅れたのか。上の子には間に合わない。制服や体操服等、新しい学校でも使えるようにしてほしい。

子どもに関わることは、子どもの声を把握するとなりました。

■10月21日、七郷小の運動会を見学してきました。小さい学校の良さが満ちあふれた運動会でした。

■地域の方、保護者がカメラを向けやすいように配慮したプログラム、全学年での種目、複数学年共通の演技は楽しそうで上手です。

■七郷小の自然に恵まれた教育環境を大切にしたい。何らかの形で学校を残す方法を考えたい。

■学びの多様性学校（児童・生徒の状況に応じて教育課程を構成、授業時間数変更）も、鎌倉市などでは設置されています。

■人口縮小社会になっても、地域は地域として存続していきます。

■10月25日、26日、玉ノ岡中、菅谷小、菅谷中、七郷小、志賀小のトイレを中心に施設老朽化を視察。自転車で学校を回りました。中学生の遠距離自転車通学は危険。北部地区の中学の自転車通学、志賀地区と七郷地区の境の小学生の徒歩通学は負担が大きい。学校再編で、町の分断が心配です。施設の老朽化を修繕しながら、通学だけでなく、地域公共交通も含め、町あり方を皆さんで考えていきましょう。

■北部地区の他遠距離通学の小中学生がいます。交通量増・熱中症への対応も必要です。